



「Rehabilitation Management of Rheumatic Conditions」

George E. Ehrlich 編

リハビリテーションにおける“チームアプローチ”の必要性は誰もが認めるところであるが、現状においてはスタッフ不足などもあってそれを満足させているとはいえない。またリハビリテーションに係わる既刊の出版物について言えば、まだ医学的リハビリテーション中心の、そして治療手技などにやや偏った感が無いでもない。

本書は「Total Management of the Arthritic Patient (関節炎患者の多面的管理)」の編集者としても知られる George E. Ehrlich による編集で、関節炎疾患に深く関連のある医師・PT・OT・看護婦・MSW など多くのスタッフがそれぞれの立場から執筆している。医学的側面はもちろんのこと職業的側面、他にも触れている。

具体的には、関節炎患者のリハビリテーションに係わるスタッフ・施設・評価、関節炎管理における自然療法専門医、薬物療法とリハビリテーションその相互作用、看護従事者、入院患者の看護、リハビリテーション看護

と手術患者、手術の合併症、SW の役割、就業に関するカウンセリングと訓練、運転に関する評価・カウンセリング・訓練、関節の保護、装具、PT の役割、足痛学者の役割、社会資源、疫学・統計などの章より構成される。

読者の職務と直接関連ある章は持ち合わせた知識の整理に役立つであろうし、また他の章を読むことは疾患そのものの理解と、チームアプローチの中での他の職種の果たす役割の理解を深めるであろう。

関節炎患者に接する方々に一読を勧めたい本のひとつである。必ずや患者のニーズに対応するうえでの一助となるであろう。

(A5判変形, 322頁, 12,600円, The Williams & Wilkins Company, Baltimore)

(自治医科大学リハビリテーションセンター

作業療法士 篠崎 直子)